



## 平成30年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年7月12日

上場会社名 株式会社セラク 上場取引所 東  
コード番号 6199 URL <http://www.seraku.co.jp>  
代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)宮崎 龍己  
問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)小関 智春 (TEL)03(3227)2321  
四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年8月期第3四半期の連結業績(平成29年9月1日~平成30年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第3四半期	6,599	—	331	—	313	—	189	—
29年8月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年8月期第3四半期 189百万円(—%) 29年8月期第3四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第3四半期	13.80	13.77
29年8月期第3四半期	—	—

(注) 当社は平成30年8月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成30年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率並びに平成29年8月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。また、みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としているため、貸借対照表のみを連結しており、損益計算書については連結しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第3四半期	4,171	2,287	54.8
29年8月期	—	—	—

(参考) 自己資本 30年8月期第3四半期 2,285百万円 29年8月期 一百万円

(注) 当社は、平成30年8月期第3四半期より四半期財務諸表を作成しているため、平成29年8月期の数値については記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	2.50	2.50
30年8月期	—	0.00	—	—	—
30年8月期(予想)	—	—	—	2.70	2.70

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年8月期の連結業績予想（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	—	590	—	600	—	370	—	26.93

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※平成30年8月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

#### ※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動： 無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 — 社（社名） — 、除外 — 社（社名） —

（注）特定子会社の異動には該当いたしません。株式会社ピースエンジニアリングの株式を取得したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年8月期3Q	13,759,200株	29年8月期	13,734,400株
② 期末自己株式数	39株	29年8月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	13,736,776株	29年8月期3Q	13,558,483株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や日本銀行による金融政策を背景とした企業収益や雇用環境の改善が続くなど、引き続き緩やかな回復基調で推移しております。

当社グループが主にサービスを提供する情報産業分野においては、投資拡大が期待されるIoTサービス、ビッグデータやAIなど新たな技術の活用拡大、またそれに伴い巧妙化するサイバー攻撃に対応するセキュリティサービスなど、活発に広がりを見せており、これら企業の需要に対応する質の高いITエンジニアの採用・育成の重要性が増しております。

このような環境の下、当社グループは積極的な人材の採用及び良質なエンジニアの育成に取り組みながら、サービスの価値向上、「みどりクラウド」をはじめとした農業IoT分野でのシェア拡大に注力してまいりました。

これらの結果、当社グループの売上高は6,599,983千円、営業利益は331,712千円、経常利益は313,364千円、親会社株主に帰属する四半期純利益189,597千円となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期等の比較については記載しておりません。

また、事業分野別のセグメント概況は、以下の通りであります。

#### ① ITインフラ事業

ITインフラ事業においては、大手企業を中心に人材が不足していることと、急激なIT人材市場の変化に備えるために、ダイレクトリクルーティング/リファラル採用などの新たな施策を追加し、引き続き人材採用に積極的に取り組んでまいりました。

安定的に継続するIT運用のほか、IoTクラウド環境への移行及びその後の運用、セキュリティ関連業務をベースとした幅広い案件の増加を背景に、マネージドサービスの強化に取り組んでまいりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,722,431千円、セグメント利益は355,528千円となりました。

#### ② ウェブマーケティングコミュニケーション事業

ウェブマーケティングコミュニケーション事業においては、顧客企業における「デジタルマーケティング領域」、「ウェブサイト運用」、「CRMマーケティング運用」の慢性的な人材不足を背景に順調に案件獲得が見込めることから、引き続き人材の積極採用及び育成に注力してまいりました。

また、BIツールであるSalesforceの導入、定着化、改善および運用を支援する「Salesforceコンサルティングサービス」においては、人材とサービスの両面において更なる拡充を進めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,336,272千円、セグメント利益は143,741千円となりました。

#### ③ スマートソリューション事業

スマートソリューション事業においては、

既存の大手企業からのシステム開発の継続案件の受注に留まらず、各種業界にて、ニーズが高まっているPoC(概念実証)段階のIoTソリューション案件の獲得に注力してまいりました。

併せて、フロントエンド技術領域の案件増加に対応すべく、人材採用と育成を継続的に進めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,307,400千円、セグメント利益は158,356千円となりました。

#### ④ その他事業

その他事業においては、通信事業や組込ソフトウェア、ハードウェア設計などへの技術提供、IoTプラットフォーム開発、農業IoTサービス「みどりクラウド」の販売・サービス提供を行っております。

通信・ハードウェア事業においては、主に製造業や通信業への技術提供を行っており、前期に引き続き安定した実績をあげております。

みどりクラウド事業においては、農作業管理システム「みどりノート」のGAP(農業生産工程管理)に関する機能強化を図ったことで、日本GAP協会の推奨農場管理システムに認定を取得しました。

また、環境モニタリング「みどりモニタ」において、仁多米の生産における実証実験を開始し、新たな用途での活用を進めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は233,879千円、セグメント損失は134,142千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、4,171,059千円となりました。主な内訳は、現金及び預金2,366,043千円、受取手形及び売掛金1,093,255千円、繰延税金資産179,250千円、前払費用41,696千円、建物(純額)が66,686千円、のれん45,623千円、その他無形固定資産93,388千円、敷金及び保証金148,763千円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、1,883,875千円となりました。主な内訳は、未払金が1,017,101千円、未払消費税等が150,399千円、賞与引当金183,921千円、長期借入金179,152千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、2,287,184千円となりました。主な内訳は、資本金が297,794千円、資本剰余金495,544千円、利益剰余金が1,492,455千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年10月13日に公表いたしました今期の業績予想は非連結のものでありましたが、第3四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成することに伴い、連結業績予想を作成しておりますが、連結業績予想につきましては、個別業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	2,366,043
受取手形及び売掛金	1,093,255
仕掛品	22,294
原材料	37,489
前払費用	41,696
繰延税金資産	179,250
その他	18,277
貸倒引当金	△3,225
流動資産合計	3,755,082
固定資産	
有形固定資産	
建物(純額)	66,686
工具、器具及び備品(純額)	14,033
その他	384
有形固定資産合計	81,105
無形固定資産	
のれん	45,623
その他	93,388
無形固定資産合計	139,012
投資その他の資産	
繰延税金資産	29,627
敷金及び保証金	148,763
その他	17,467
投資その他の資産合計	195,859
固定資産合計	415,977
資産合計	4,171,059
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	22,373
1年内返済予定の長期借入金	95,320
未払金	1,017,101
未払法人税等	115,674
未払消費税等	150,399
賞与引当金	183,921
その他	33,483
流動負債合計	1,618,274
固定負債	
長期借入金	179,152
退職給付に係る負債	84,848
その他	1,600
固定負債合計	265,600
負債合計	1,883,875

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成30年5月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	297,794
資本剰余金	495,544
利益剰余金	1,492,455
自己株式	△32
株主資本合計	2,285,762
新株予約権	1,421
純資産合計	2,287,184
負債純資産合計	4,171,059

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
売上高	6,599,983
売上原価	5,174,241
売上総利益	1,425,741
販売費及び一般管理費	1,094,029
営業利益	331,712
営業外収益	
受取利息	11
助成金収入	2,959
為替差益	0
その他	1,696
営業外収益合計	4,667
営業外費用	
支払利息	643
市場変更費用	22,372
営業外費用合計	23,015
経常利益	313,364
特別損失	
減損損失	2,155
特別損失合計	2,155
税引前四半期純利益	311,209
法人税、住民税及び事業税	200,022
法人税等調整額	△78,409
法人税等合計	121,612
四半期純利益	189,597
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	189,597

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	189,597
四半期包括利益	189,597
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	189,597
非支配株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成29年9月1日 至 平成30年5月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益計 算書 計上額 (注3)
	I T インフラ	ウェブマ ーケティング コミュニケーション	スマート ソリューション	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,722,431	1,336,272	1,307,400	6,366,104	233,879	6,599,983	—	6,599,983
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,722,431	1,336,272	1,307,400	6,366,104	233,879	6,599,983	—	6,599,983
セグメント利益又はセグメント損失(△)	355,528	143,741	158,356	657,626	△134,142	523,483	△191,770	331,712

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、みどりクラウド事業及び通信・ハードウェア事業、機械設計受託業務、3DCAD教育・機械製図教育、機械設計技術者派遣事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに配分されない固定資産の減損損失 2,155千円

なお、セグメント資産については、事業セグメントに資産を配分していないため、減損損失についても報告セグメントへの配分は行っておりません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間において株式会社ピーズエンジニアリングの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことから、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、45,623千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。